

## Fujisawa サステイナブル・スマートタウン

都市： 神奈川県藤沢市

分類： 技術実証型、都市開発型（新規）、スマートグリッド型、スマートハウス型、健康・福祉型

時期： 2011年～2018年度

予算： 約600億円

面積： 約0.19km<sup>2</sup>

人口： 3000人（1000世帯）

主体： パナソニック

政府機関： ——

参加企業： アクセンチュア、オリックス、日本設計、住友信託銀行、東京ガス、パナソニック、パナホーム、三井不動産、三井物産

## ＜技術実証型＞＜スマートグリッド型＞＜スマートハウス型＞

パナソニックの藤沢工場跡地に環境配慮型のスマートタウンを建設する（図1）。“創エネ” “蓄エネ” “省エネ” を連携させ、エネルギーの自律制御/協調制御により、エネルギーの自給自足を実現した家を1000戸建てる。そのすべての家に太陽電池、蓄電池システムを標準装備する。ほとんどの設備機器をパナソニックグループ製で調達すると見られる。初期の蓄電池は緊急用の最小限の容量だが、世帯構成などの変化に応じて容量を増設できる更新サービスの導入も検討している。

各設備機器をパナソニック独自の連携技術により、「SEG (Smart Energy Gateway)」でコントロールする。同社はこれらの機器をパッケージ化したシステムを「家まるごとソリューション」と称している。この「家まるごと」を「店舗まるごと」「福祉施設まるごと」「公共まるごと」まで拡大した“まるごとソリューション”を街区全体で最適設計シインフラとして導入することで、「電力・情報ネットワークが最初からつながるスマートな街づくり」を目指す。

スケジュールとして、2011年度に基本設計開始、2012年度に区画整理事業計画の認定申請および着工を予定し、2013年度の街びらき、2018年の全世帯入居を目指す。自然の恵みを取り入れた有機的な街区プランやエネルギー機器導入と景観のデザイン融合を図る。例えば、公園配置や幹線道植栽による「緑の軸」や風向を考慮した「風の道」の形成、景観に融合する太陽電池のデザインなど。



図1 「Fujisawa サステイナブル・スマートタウン」の建設予定地

ここで実証した事業モデルを国内外に展開していく（パナソニックのニュースリリース）。